

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270135116		
法人名	社会福祉法人 鳳彰會		
事業所名	グループホームひこぼえ		
所在地	長崎県長崎市早坂町1180番地7		
自己評価作成日	令和6年1月19日	評価結果市町村受理日	令和6年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和6年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、特別養護老人ホーム併設で、同敷地内にケアハウス、ショートステイ(併設型、ユニット型)があり、地域での一員として各事業所や、協力医療機関との連携を図り、より質の高いサービスを提供することができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは楽しく！明るく！笑顔いっぱい！生活に生きがい！をモットーに、介護度は高くても、本人ができることは本人に行ってもらい、できないところを支援する自立支援の考え方を大事にしている。以前家庭で担ってきた役割などその方の残存能力を引き出し、職員は生活意欲を高めていくように支援している。生活や食事の中に季節が感じられるように工夫し、食事に関しては、手作りのものを提供しており、特に力を入れて取り組んでいる面であり、入居者や家族の食に対する楽しみに対し最大限に応じていることが今回の訪問調査でも窺えた。コロナウイルスや感染症の影響により面会制限もあるが、入居者にとって面会は認知症の進行防止には欠かせないことも管理者は十分理解しており、今後は家族会で一緒に食事をとる機会を設けたいとの言葉も聞かれ、また、職員全員が入居者一人ひとりに家族のように接している姿も窺え、今後、ますます期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の目立つ場所に掲示しており、職員が共有できるようにしている。	玄関に理念は掲示しており、職員や入居者や訪問者はいつも目にする事ができる。しかし、職員全員が理念の把握はできてはいない状況でもあった。月1回の職員会議においても会議の中で理念の確認をする機会もなかった。	今年度、管理者、計画作成担当者の交代も含め新職員の入職もあり、改めて理念について職員間で話し合う機会を持ち、職員全員で理念を理解、実践し、支援の振りかえりができるよう取り組むことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦で地域の方々との交流が出来ていない。地域の情報等を包括支援センターを通じて知り得ている状況である	高校生の職場見学の受け入れは継続して行っている。コロナ禍の影響もあり、地域の方との交流は中々できていないが、今後、管理者は少しずつ自治会長や民生委員と交流や情報交換を通じて有事の際の地域の方との協力体制も作っていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ渦で以前のように地域の方々に向けて認知症の方を理解をお話する機会がない。今後、地域の方々との交流が出来たり、外出する機会があった場合はお話をさせていただきたい。また運営推進会議などで事業所の取り組み、ケアについての報告、意見交換等を行っていく		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議についても、コロナ渦により文書を送付させていただいている状況。今後は施設に来ていただき、日々の生活や行事への参加、避難訓練の様子等を直接報告するようになりたい	今年度は対面会議を予定していたものの、コロナやインフルエンザなど感染症の影響により書面会議の実施となった。運営推進会議のメンバーは自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表で構成され、書面にてホームの状況などを報告している。	書面会議においては運営推進会議のメンバーに送付している書類が、報告書のみの方通行となっているので、メンバーより意見や提案を聞くために例えば返信用封筒を添えて照会するなど書面会議でも双方向の会議ができるよう工夫することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種手続きについては、郵送にて行っている。また、電話等の相談や報告も行っている	市の担当者や地域包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバーとなっており、日頃より介護保険に関することや各種申請などについて連絡を密に取り、協力体制を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、必要時ご本人、ご家族、主治医に相談を行い、改善出来るように努めている。また、月1回法人の身体拘束委員会に出席を行い、身体拘束をしないケアを目指して取り組んでいる	玄関の施錠は基本的には行っていない。現在は、見守り強化のためにセンサーマットや布団に鈴をつけるなど対応している入居者がいる。毎月会議の中で身体拘束をしないケアについて話し合っている。言葉による拘束に対しても職員間で注意し合える関係ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回法人の虐待防止委員会に出席を行い、虐待をしないケアが継続できるよう取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で成年後見人制度、権利擁護等を学び、ご利用者に対しての関わり方や必要性を学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談や契約時に分かりやすく、口頭及び文書にて説明を行うようにしている。また、疑問や不安があった場合は適切に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等の際に意見や要望等を聞くようにしている。また、それらの意見や要望が職員間で共有出来るように連絡ノート等を活用している	ホームは玄関先に意見箱を設置し、面会時や電話の際には家族に意見や要望を聞くように心がけている。今回の家族アンケート調査においても、ホーム職員から本人の暮らしぶりや健康状態についてよく報告があるとの声が多かった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は職員会議、日常会話で共有しハード面、ソフト面で改善が出来るように取り組んでいる。また、意見が出しやすい環境も継続していきたい	月に1回職員会議を行い、管理者は職員から意見や提案を聞く機会を設けている。職員は全員参加を基本とし、参加できない職員は積極的に働きやすい環境整備や入居者の支援方法などの意見や提案をを紙に書いて管理者に渡すなど活発に意見交換ができており、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で取り組んでいる。就業規則は職員がいつでも閲覧できる場所に設置してる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修に参加する事により、各職員の質の向上が図れるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修機会やサービスの質の向上を図りながら多職種と意見交換や情報収集等にも推奨している。また、法人全体で各セクションとの連携や情報の共有にも取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段から会話やレクリエーションの関わりの中で、安心して生活が出来るようご本人の意向や話やすい環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や連絡する時には、その方の思いや立場に配慮しながら、率直な意見や要望が訴えやすいように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族はもちろん、連携室や関連ソーシャルワーカーとの情報を共有し、必要な支援を見極めるように努めている。また他のサービス利用も含めた上での相談、援助も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が生活をされる上での生活の場である事を認識し支援している。また、生活には欠かせない役割が継続出来るように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を大切にし、ご家族と共に支援し、様々な事情に配慮しながら行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ渦の為、面会を禁止していますが、「ひこばえ便り」を毎月お送りすることで、日常生活状況をお知らせしている	現在は、コロナやインフルエンザなど感染症の影響により、入居者との面会制限を行っているが、管理者は感染が落ち着いたら家族を呼んでホームで食事会を開催したいという思いがある。今年は家族あてに年賀状を入居者とともに書いたり、毎月ホームだよりで入居者の状況を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係作りを大切にし、お互いを認め合えるような働きかけを工夫しつつ支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、途絶えない関係作りを大切にしている。また、いつでも気軽に相談をしていただけるよう環境作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用お一人お一人の希望や、意向に関して、言葉に出来ない訴えや上手く意思疎通が困難な場合にも、その方の立場に立った計画を立案し、取り組んでいる	日頃の入居者との会話や表情、行動を通して思いや意向をくみ取るように心がけている。また、その情報は申し送りや記録で職員間で共有して、理念にもある「その人らしい生活を送れるよう」支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用の情報収集を行い、情報の共有とともに共有認識のもと把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の些細な状況、心身状態に関して共有し把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良い暮らしが出来るように、ご本人はもちろん、ご家族や担当者に意見や意向を聞き、現状に応じた介護計画を作成している	職員が記載する日々の記録と介護計画が連動しており、職員は毎日介護計画を見て介護目標や支援内容を確認している。管理者やケアマネも日頃より介護現場に入り、職員から意見を聞く機会も多く、現場に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況、状態の記録や連絡帳等、情報の共有に努めている。その活用内容等を活かしケアの検討や見直しを介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応し、グループホームでの生活を中心に、日々の業務を工夫し柔軟に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関りや運営推進会議等で情報の共有やご本人、ご家族との関りの中で安心して暮らす事ができ、ケアの充実が図れるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の2週間に1回の訪問診療で状態報告や相談を行い、状況に応じて受診やご家族協力のもと適切な支援をしている	内科医が2週間に1回、歯科医が1か月に1回、眼科医が3か月に1回訪問診療を行っている。そのほかの受診は家族対応で行っている。内科医が緊急時も24時間対応しているので指示を仰ぐことができる。薬が変わったときなどは申し送りノートで職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師、かかりつけの医療機関の看護師等に相談し、適切な受診指示を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をした際に、ご本人、ご家族の了承を得て情報を提供している。入院中の面会については、コロナ渦の為困難なので電話での情報収集を行い、ご家族、医療機関共に協力し早期退院が図れるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関しては、ご本人、ご家族の意向をお聞きし相談に応じられるようにしている。主治医への報告や相談等を随時行い確認の上取り組んでいる。また、令和4年6月より看取り体制を整えている。ご希望のご利用者及びご家族がいらした場合は、主治医と全職員と情報を共有し最期まで施設で生活できるように支援していく	入居時に、本人、家族へ重度化、終末期に関し当ホームができることを説明し、意思確認書を交わしている。重度化した場合は早い段階より主治医と一緒に話し合いの場を持ち、家族の意向の確認を行っている。これまで当ホームでの看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは普段より状況や状態に応じてスキルを身に付け、共通認識にて対応を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	職員会議で、消防訓練、避難訓練を実施し、マニュアルに沿って、周知確認をしている	現在、BCP(業務継続計画)は法人母体により作成中である。特別養護ホームやショートステイ、ケアハウスと合同で避難訓練を行っている。備蓄品は倉庫に保管され備蓄一覧表で管理している。	有事の際の持ち出しファイル(入居者の写真入りの基本情報、薬情報など)を整備するとともに今後、自治会長や民生委員などにも協力を求めるなど地域との協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者お一人お一人を尊重し、状況や状態に応じてのケアを行い、随時丁寧な対応を心がけている	月に1度接遇研修があり、職員同士で不適切な声かけがあった場合は注意し合える関係ができています。ホームで発行する新聞などへの入居者写真掲載にも家族や入居者から同意を得ています。ポータブルトイレは使用していない場合は布をかぶせるなど誇りや羞恥心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉でうまく伝えられなかったり、遠慮されたりする傾向が見受けられた時には、表情を察して日々の様子やご本人の意向、意思が確認出来るように工夫し対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者お一人お一人のペースに合わせて柔軟な対応に心掛けを、日々工夫しご希望に添えるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく心地よく生活し、整容、洗面、衣服等がきちんと整えられるように心掛けている。また外出やイベント時等はおしゃれ等を楽しめるように心掛けている。また、定期的に訪問理美容にてカット・髪染めも行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、献立作成をしていますが、その場の状況に応じて変更したり、少しでも美味しく食べていただけるように支援している	ホームで手作りの食事を提供している。時には「かつ丼」なども出されるなど、入居者が食事を楽しみにしている。美味しい手作りの食事提供がホームが力を入れている点の一つである。入居者に役割を持ってもらう取り組みとして、職員と一緒に食器や盆ふきなど行っている。	